

第3回岡谷市基本構想審議会

会 議 録

【出席者】

○委員(16名)

今井誠 委員、太田博久 委員、太田深穂 委員、小口泰史 委員、笠原新太郎 委員、齋藤博子 委員、薩摩建 委員、高見澤恒子 委員、武田彰 委員、中村進 委員、中村文明 委員、中山昇 委員、新田隆史 委員、林幸夫 委員、山崎舜次 委員、横内文雄 委員

(※欠席者…上沼隆弘 委員、唐澤剛 委員、小林妙子 委員、中畑聖二郎 委員 以上4名)

(五十音順)

(説明者)

○担当部課(9人)

企画政策部	部長	岩垂俊男
企画課	課長	岡本典幸
	副技監	山岡泰一郎
	統括主幹	松村佳江
	主幹	宮坂征憲
	同	味澤勝一
	同	清水亮
	同	秋山仁志
	同	野田康裕
	主査	新村尚志

第3回岡谷市基本構想審議会 会議録

平成30年10月5日(金)

午後2時00分～午後4時00分

市役所8階 全員協議会室

1 開会

市民憲章唱和

2 会長あいさつ

会長	<p>みなさんこんにちは。今回、いよいよ審議に入るわけでございますけれども、前回、研修会をしていただきまして、今後、審議をしていくなかで、参考になることをいただいたのかと思います。</p> <p>限られた時間の中だと思いますが、皆さん積極的に発言をいただきまして、検討をしていただければと思っております。</p> <p>また、前回の小口副市長さんのお話の中にもありましたが、10年先、どのような時代になるのか、社会になるのか分かりませんが、それを予測して、岡谷市民が安全・安心に住めたり、また、住むことに誇りをもって前に進めるような、そんなまちづくりができればと思いますので、我々、今の段階では大局的な立場でものを見て、ものを判断していけばよいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
-----------	--

3 議題

(1)「1 序論」について

会長	<p>それでは議事に入らせていただきます。本日は、計画案のうち「1 序論」、それから「2 基本構想」のうち「(1)将来都市像」から「(4)まちづくりの基本目標」までを、全員で審議する予定となっておりますので、よろしくお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、議題の(1)「1 序論」について、説明をお願い申し上げます</p>
企画課主幹	<p>諮問案の1ページから24ページにかけて記載をしております「序論」につきまして、概要や基本的な考え方をご説明させていただきます。</p> <p>第1回審議会でのご説明と重複する点もございますが、再確認の意味も含めまして、お聴き取りいただければと思います。</p> <p>まず、1ページをご覧ください。「序論」は、「計画の策定にあたって」、「岡谷市の姿」、「時代の潮流」、「市民アンケートの状況」の4項目により構成しております。</p> <p>2ページをご覧ください。「(1)計画の策定にあたって」では、計画を策定する趣旨、位置づけと役割、計画の構成と期間について記述をしております。第5次岡谷市総合計画は、総合的かつ計画的な行政運営を図るために、「岡谷市総合計画の策定に関する条例」に基づいて策定するものであり、これまでと同様に、市政運営に係る最上位の計画として位置づけております。</p> <p>また、市民の皆さんに、こうした市政運営の指針を示すことを通じて、多くの方のご理解をいただくとともに、まちづくりへの積極的な参加と行動を促し、市民総参加による市政の推進を図ってまいりたいと考えて</p>

おります。

3 ページは、計画の構成と期間について説明をしております。総合計画は、基本構想を頂点に、基本計画、実施計画の3つで構成し、全体の計画期間を2028年度までの10年間とするなかで、2019年度から2023年度までを前期基本計画、2024年度から2028年度までを後期基本計画としております。

なお、前期基本計画は、国が進める地方創生の取り組みに基づき、岡谷市の創生を図るため、平成27年度に策定をいたしました「岡谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を包含する計画としております。

5 ページから13 ページまでの「(2)岡谷市の姿」では、本市の概要や歴史・沿革などを5項目にわたり記載しており、第4次岡谷市総合計画ではなかった項目であります。新たなまちづくりに取り組む上で、岡谷市の姿を再認識することも大切であると考え、新たに記載をいたしました。

14 ページからは、「(3)時代の潮流」となります。岡谷市が目指すべき方向性を見誤らないようにするためには、時代の流れを的確に把握することが重要であります。このため、岡谷市を取り巻く社会経済情勢の変化について、6つの視点から整理を行い、これを基本構想及び前期基本計画に活かしております。

このほか、17 ページから24 ページまでの「(4)市民アンケートの状況」では、市民意見を把握するため実施した各種アンケート調査の概要を記載しており、先ほどご説明いたしました「(2)岡谷市の姿」と同様に新たに設けた項目であります。

「序論」に関する説明は以上となります。

会長

それではただいまの説明につきまして、ご質問またご意見ございましたら、挙手をして発言をお願いしたいと思います。

24 ページまでの間、どこからでもよろしいかと思っておりますので、お願いします。

会長

それでは、みなさん発言いただくまでに、私が繋いで良いですか。

例えば、文言の共通認識をどういうふうにつかというあたりが、例えば8 ページをご覧頂きて、このページには歴史・沿革が書いてあるんですけども、大変、私からすると良い項目かと思っております。その中に、たいしたことはないが、たまたま縄文時代の3行目の後ろの方に「大きなムラ」という、カタカナで「ムラ」という表現があるんですよね。それ以降、「ムラ」ということを、いわゆる集落という事をカタカナで表現しているんですよね。その後にも弥生のところにもありますし、それから奈良時代、平安時代のところにもあるんですけども、「ムラ」という表現はそういう形で捉えろと、いうことですか？

何か特徴的に「ムラ」を意識して、表現が決まっていれば教えてもらえればと思いますけれど。

企画課主幹

ただいま会長さんから8ページの「ムラ」という表現の部分についてご質問をいただきました。こちらの8ページ、9ページの部分の記載内容につきましては、それぞれ担当課におきまして内容について精査をさせていただいております。

例えば8ページ、歴史・沿革の部分につきましては、美術考古館、こちらにおります学芸員の方等中心に、教育委員会サイドで中身をきちんと

	<p>と確認して、最終的に整えていきたいと考えております。そうした中で、表現の部分も岡谷市のこれまでの、岡谷史誌ですとか、各種の岡谷市の歴史に関する書籍等の中で使われている表現に準拠していく形になるのかと思いますので、最終的にそこに準拠していくということで、表現になっていくと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。以上です</p>
<p>会長</p>	<p>分りました。</p>
<p>会長</p>	<p>それではもう1点よろしいですか。</p>
	<p>12ページ、13ページに産業の状況とか、事業所、従業員、そういったものの円グラフがあるんですけども、私の希望とすると、例えば13ページの従業員のところの合計が21,511とあります。それで、製造業が8,098だと思っておりますけども、できましたらここにパーセンテージがあればいいかなと思っておりますけども、付け加えができるかどうかご検討いただければと思っておりますけれども。</p>
<p>企画課主幹</p>	<p>グラフの部分につきましては、会長さんからいただいた点を参考に、検討してまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。</p>
<p>会長</p>	<p>お願いします。</p>
<p>会長</p>	<p>何かございますか。</p>
<p>F委員</p>	<p>この第5総がこれからつくられて、それと、まち・ひと・しごと創生総合戦略、この中に2ページと3ページのところに、一体と成すとか包含するというような表現で記載されているんですけども、「まち・ひと・しごと」とのそれぞれの目指す役割、それぞれの計画、この5総の計画、それと「まち・ひと・しごと」もかなり全般に網羅されていたと思っておりますけれども、その2つのそれぞれの整合性というのか、それぞれの計画の目的、役割分担、それはどんな風に捉えればよいのかと思っておりますが、教えていただけますか。</p>
<p>企画課長</p>	<p>総合戦略という部分につきましては、今から3年前、27年度に策定をしております。当初は、国の方からきた考え方としますと、地方創生という考え方につきましては、地域人口減少における衰退ということや東京一極集中を是正するという事で、人口増に対する計画を作りなさいというのが大きな目標でした。人口増するための施策という形で作っております。ただ、人口増を目指すためには、やはり地域に仕事がないといけないということもありまして、まち・ひと・しごと創生総合戦略という位置づけでやっておりました。当初は、この計画を作るにあたって、それぞれの市町村にはそれぞれ総合計画があり、まちの活性化のために作っている計画ですので、共通する部分は多々ありますが、考え方とすると、これからの人口減少を見据えて、どうやって人を増やし、どうやって仕事を作っていくかということがメインですよということで、たまたま岡谷市ではすでに第4次岡谷市総合計画の後期基本計画がスタートしていたものですから、別で作った経過がございます。丁度その時に計画がスタートする年であれば、一緒に作っていたという流れもあるかと思いますが、今回は、1年前倒しをして、総合戦略は、今の計画が31年度までありますが、新しい計画が31年度からスタートし</p>

	<p>ますので、前倒しして、包含するという形にしております。特にこの総合計画は全てのものになりますので、いろんな部分からからんできます。今回私どもが考えている部分につきましては、総合計画の中から特に人口増するための施策又は仕事を作るための施策、そういったものを重点的ということでおいて、この計画の中で、この部分は総合戦略に位置づけている事業ですよとかいう位置づけにさせていただいて、区分けをしていこうと考えている。</p>
<p>F 委員</p>	<p>ちょっとわかりにくい。関わっていればわかるんですが、関わっていない方のほうが圧倒的に多いので、あれはどうなったのかとか5総合計画との関係性とか、一つにしちゃうってわけにはいかないわけですね。</p>
<p>企画課長</p>	<p>基本的には一つにするというのが基本的な考え方です。先程もいいましたとおり、総合計画というのはまちづくりの基本になる計画でございます。その中で、今回のつくりは、それぞれ個別のものは個別であるものですから、この総合計画はもっと全体の大きなことをうたっていこう、細かいことについては個別計画でうたいましょうという位置づけにしています。ですので、総合戦略もどちらかというところとそういった人口増、仕事づくりの個別計画という位置づけでございますけれども、そうはいつでも全体的なまちづくりにおいてはまちの活性化にも繋がる話でもありますので、総合計画の中に一つにして、その中でも個別計画として取り組むという位置づけにさせていただきますので、基本的には総合戦略と総合計画は一つのものという位置づけにしていきたいという風に考えています。</p>
<p>F 委員</p>	<p>わかりました。</p>
<p>会長</p>	<p>大変細かいことでもよろしいでございますか。文言の確認なんですけど、14ページの中段に「医療、介護、生活支援など日常生活を支えるサービス基盤を確保するとともに、多様な主体」とあり、「多様な主体」という言葉が出てきているんですが、「多様な」という言葉はいろんな角度で等でとれるんですが、「主体」というのは、我々はどういう風に考えたらいいのか教えていただければと思います。</p>
<p>企画課主幹</p>	<p>ただいま14ページ(3)時代の潮流①人口構造の変化の4段落目の最後の「多様な主体」の部分かと思いますが、この「多様な主体」というのは、この項目の最後の段落のところになりますけど、例えば主体の具体例とすれば、家庭であったり、ボランティアの皆さんであったりNPOの関係の方であったり、企業さんもちろん市民の方一人ひとりもそうだと思いますけれども、そういった部分を総体的にとらえて「多様な主体」と表現させていただいています。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>会長</p>	<p>よろしいでございますか。それでは、また戻ってもいいですので次の段階に入りたいと思います。</p>

(2) 「2 基本構想について」

会長	「2 基本構想」の部分に入ります。事務局からご説明をお願いします。
企画課主幹	<p>「2 基本構想」の概要や基本的な考え方につきましてご説明をいたしますので、諮問案の25ページをご覧ください。</p> <p>「基本構想」は、「将来都市像」、「岡谷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」、「土地利用の構想」、「まちづくりの基本目標」、「施策の大綱」の、5項目により構成しております。</p> <p>このうち「施策の大綱」は、前期基本計画と関連性が深いいため、次回から行う前期基本計画と合わせてご審議いただきたいため、本日の審議会での説明を省略させていただきますのでよろしくお願い致します。</p> <p>それでは、26、27ページをご覧ください。</p> <p>「(1)将来都市像」として、「まちづくりの基本理念」と「将来都市像」を掲げております。「岡谷市民憲章」をまちづくりの基本理念に位置づけるとともに、「将来都市像」を「人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷」といたしました。</p> <p>本市に関わる全ての「人」と「人」があたたかい「心」でまじわり、多様な主体による地域の支えあいがかさらに強くなっていくことをはじめ、「人」と「もの」や、「人」と「こと」、「人」と「情報」など、あらゆるものの結びつきが深まるなかで、市民やまちがもつ夢や希望が紡ぎ出され、実現し、シルクのように美しく強く、そして輝きを放つ人々が生活するまちづくりを進めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、「たくましいまち岡谷」は、岡谷に住み、働き、学び、訪れるすべての人々が、安全で安心して暮らしたり、過ごしたりすることができるまちとしての「やさしさ」と、産業などをはじめとした、さまざまなものに支えられた「揺ぎない力強さ」をイメージしたものであります。</p> <p>次の28ページには、将来展望人口として「(2)岡谷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」について記述をしております。</p> <p>第5次岡谷市総合計画は、「岡谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について1年前倒しを行い、前期基本計画の中へ包含する形で取りまとめたため、岡谷の創生の実現に向けて効果的な施策を展開する上で基礎となる「岡谷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」についても記載し、新しい総合計画に基づく2019年からの10年間の取り組みを通じて、同ビジョンに掲げた2060年の将来展望人口4万人台の維持の実現をめざすことといたしました。</p> <p>第4次岡谷市総合計画では、計画初年度である平成21年4月の人口規模を維持することを目指し、平成30年度の目標人口を5万3千人といたしました。が、国全体が人口急減という深刻な課題に直面しており、本市においても人口減少が続いております。</p> <p>こうしたなかで、都市の活力を維持するためには、やはり一定の人口規模が必要であると考えております。</p> <p>統計的に推計される2028年度の人口は約4万人であり、人口減少は避けられない状況にあります。が、「ものづくり産業の振興による働く場所の確保」をはじめ、「安心して子どもを産み育てることができる環境の整備」や「本市の魅力を市内外に発信」することなどにより、出生数の減少に歯止めをかけるとともに、若者世代の転出抑制と転入促進を図り、「岡谷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」に掲げる将来展望人口4万人台の維持の実現を目指します。</p>

続いて、29ページからは「土地利用の構想」であります。

市民共有の財産である市域の有効活用を図るために、地域別と目的別の土地利用のあり方を示しております。

国が定める「国土利用計画」に基づく岡谷市の計画として規定するものであり、地域の振興を基本として、健康で文化的な生活環境の確保と地域の均衡ある発展を、総合的かつ計画的に推進してまいります。

具体的には、地域別に、市の区域を北部、中部、南部に分け、それぞれ特色を生かした土地の活用を図ってまいります。

また、目的別に「森林保全ゾーン」、「森林ふれあいゾーン」、「中心市街地ゾーン」、「親水ふれあいゾーン」の4つの整備ゾーンを設け、乱開発を防止し、適切な土地利用を誘導いたします。

最後に、32ページの「まちづくりの基本目標」であります。

第5次岡谷市総合計画では、時代の潮流や本市の現状と課題をはじめ、市民のみなさんからのご意見などを踏まえつつ、岡谷市の特色を活かした、これからの時代に相応しい6つの分野に分けて、基本目標を定めたとところであります。

基本目標ごとの個別内容については、次回以降に審議いただきますので、今回は、基本目標の設定の仕方や考え方についてご意見をいただきたいと思っております。

まず、「ともに支えあい、健やかに暮らせるまち」につきましては、保健や福祉医療分野などの取り組みを最優先に考えるご意見を数多くいただいたことから、少子化や超高齢社会に対応したまちづくりに取り組むため、子ども・子育て支援や福祉、保健・医療に関する分野の目標としております。

次の、「未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち」につきましては、未来を担う子どもたちの教育が重要であるとのご意見から、未来の岡谷を担うひとづくりなどに取り組むため、学校教育や生涯学習に関する分野の目標としております。

また、「人が集い、にぎわいと活力あふれるまち」は、本市の基幹産業である製造業を中心に産業振興を図り、働く場所の確保を通じて人口減少に歯止めをかけていくことが必要であるとの観点から、活力あるまちづくりに取り組むため、産業振興に関する分野の目標といたしました。

さらに、「安全・安心で、自然環境と共生するまち」につきましては、平成18年7月豪雨災害から学んだ教訓を活かし、安全・安心に生活できる環境整備の重要性や、恵まれた豊かな自然環境を後世へと引き継いでいくことの大切さに対する声から、安全対策や環境保全、居住環境に関する分野の目標としております。

このほか、「快適な生活を支え、住み続けたいまち」は、まちの顔でもある駅周辺の活性化をはじめ、道路環境の維持・整備に取り組んでいくことが必要とのご意見から、計画的土地利用や都市基盤の整備に関する分野の目標といたしました。

また、「みんなでつくる、確かな未来を拓くまち」につきましては、人口減少や高齢化が進むなかで、地域におけるつながりの希薄化や地域コミュニティの担い手不足を危惧する声に加え、厳しい財政状況の下、真に必要な行政サービスを提供していくためには、効率的で健全な行財政運営に取り組むことが必要であるとのことから、地域コミュニティや市政運営に関する分野の目標といたしました。

なお、基本目標の順番であります。市といたしましては、将来都市像の実現に向けて、どれも等しく重要であると考えております。諮問案

	<p>では、ただいまご説明いたしました順番としておりますが、ご審議をいただくなかで、基本目標の順番についてもご検討をお願いしたいと考えております。</p> <p>以上、簡単ではございますが、基本構想の基本的な考え方についてご説明させていただきました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。「2 基本構想」は(1)～(4)まであります。区切らせていただいて、まず(1)将来都市像についてご意見等ありましたらお願いいたします。</p>
R 委員	<p>27ページの②将来都市像で1行目のところに「地方自治体の責務として、市民のみなさんの福祉の増進を図ることや」とありこの「福祉」というと高齢者の関係等が入ってくると思うが、その下に人口減少という文言が入っているわけですが、これに対して子どもたちに対する施策というのも将来都市像の中に入れていったほうが良いとおもうがいかがでしょうか。</p>
企画課長	<p>この「福祉」という部分ですが、行政からの捉えますと、全てが福祉という捉えになります。ですので、福祉という部分については子どもから大人までというところまでとらえていますので、全体の福祉の増進ということで入れている。先程の子育てという部分になりますと、「人結び」という部分だとか、これは、人と人が結ぶ、大人でも子どもでも全ての人が結ぶ、また、全ての方が夢と希望を持ちながらそれを結んでいく。そんなようなまちを目指していきたいということでありまして。言葉的には「福祉の増進」という形になっているが、この中には子育ても含めた福祉という部分も入っていますので、ご理解いただければと思います。</p>
R 委員	<p>33ページを見ますと、施策の大綱のところ「2 福祉の推進」があるわけですが、「地域福祉の推進」から「障がい者(児)福祉の推進」まであり、一般の方にはとらえられてしまう。行政的には全体というのはわかるんですが、文言として何か入れたほうが良いのではという意見です。</p>
企画課長	<p>今いただいた意見につきましては検討させていただきます。</p>
A 副会長	<p>将来都市像の「人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷」はとても綺麗で、解説である程度のイメージはできるんですが、解説の中の2段落目の2行目のとこに「人」と「もの」や、「人」と「こと」、「人」と「情報」などあらゆるものの結びつきが深化していくこと」と書いてあります。将来都市像のキャッチフレーズを市民のみなさんに理解いただくための説明だと思いますが、「人」と「情報」の結びつきの深化というのは比較的イメージがしやすいと思いますけれども、「人」と「こと」が深化していくというのはイメージがしづらいんですが、ここの3つの項目が意味するものを教えていただきたいのと、「人」と「もの」もうちょっとわかりやすくしていただく説明が必要だと思いますがどうでしょうか。</p>
企画課長	<p>こちらの部分については、全体的な形で、人口減少という時代に突入しています。そういう社会の中で「ひと」という部分は重要なことなの</p>

でおいてあります。「もの」というのは単純にいいますと、岡谷にある「もの」をイメージしています。いろんな文化的なものから、新しいものまでをイメージしています。「こと」というものは、行政で言うと事業になりますが、地域で言えば行事のような出来事が人との結びつきになるという意味合いで「こと」を使っています。「情報」というのは、情報社会というのもありますので、「情報」として使っています。今、岡谷市にいらっしゃる市民、岡谷市にある財産、事業、行事、そういうもの全てのものが結びついて深化、もっと発展していくと意味合いで使っています。

A 副会長

そうすると、余計に鍵括弧つきのものでもありますので、体裁としてどうかはわからないが、「もの」、「こと」はこういうことです、のように用語解説というほどではないですが、なにか説明を入れていただくとわかりやすいかと思っておりますので、検討をお願いします。

F 委員

ここで議論することではないのかもしれないですけど、一番基になっている市民憲章についてです。昭和46年に制定されたので今年で47年、半世紀がたとうとしている。そのときから話が出てきていたが、市民憲章はやたら書き換えるものではないし、いつの時代にあっても変わらない普遍的な目標であると書いてありますし、これが基になっているんな計画が作られる。格調が高いですし、普遍的な内容になっているんですが、さすがにちょっともう使わない言葉だったり、イメージ的に合わない言葉が使われている気がします。推進協議会の中でも話が出ているかもしれませんが、そろそろいつかどこかで誰かが手を挙げて変えるべきじゃないかという声をそろそろ出すタイミングではないかと思えます。そのへんのところはどうでしょうか。推進協議会の方に聞いたほうがいいのかもかもしれませんが、まちづくりの理念になるととても大事なことだと思えますのであえて質問させていただきました。

企画課長

10年前も同じ検討をした記憶があります。推進協議会の中でも様々な検討をさせていただきました。40周年ということで検討させていただいた。団体の皆さんにアンケートをとった結果、若干、見直しはどうかという答えがありましたので、その当時の推進協議会の協議とすると、次回50周年のときにもう一度検討しましょうということになっています。現在の事務局長さんともそういう話をしている。市民憲章自体がちょっと特殊でございまして、各市町村でこういった憲章文を掲げているんですが、ほとんどが行政が作りまして、議会の承認を得ているというものです。しかし、岡谷の場合は、先人が非常に先進的な取り組みをしております、議会での議決というものではありません。市民に同意をしていただいて、議会も賛成してということで制定されています。これを改正ということになりますと、市民の皆さんのご協力をいただいて改正しないといけないと思えます。その節には、こういった市民の皆さんの代表の方にも集まっていたいただいて検討することも必要と考えています。時期をみて検討させていただきたいと思えます。

F 委員

市と、推進協議会とで声を出さないとできないことだと思えますので、アンタッチャブルにしないで、検討されたらいかがかと思えます。

会長

そちらの部会で検討していただくということで。

F 委員	ただ、これが基になっているので一番大切なことだと思います。
会長	<p>市民憲章につきましては、皆さんいろんな思いがあるかと思いますが、私個人的な意見としましては、今の時代でも決して古くないと思っているんですよ。基本的な部分を言っているものですから。若干、文言が時代があるものですから、感じるとこはありますが、古くはないと思って読んでいます。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p>
R 委員	<p>②将来都市像ですが、第4次岡谷市総合計画のを見ますと、「安定した財政基盤を確立することが重要」という文言があるわけですがけれども、今回には、そういった健全財政といった財政的な言葉が入っていない。人口減少ということが言われている中で、財政が逼迫されていると市民の人も口にしているのです、そういった文言も入れていったほうがいいのではないのでしょうか。</p>
企画課長	<p>第4次岡谷市総合計画では「安定した財政基盤」という言葉が入っております。今回は、私どものイメージとしますと、解説の下から2行目になります「産業などをはじめとした、さまざまなものに支えられた「揺ぎない力強さ」という部分が財政基盤ととらえております。ただ、今ご意見をいただきましたので、検討をさせていただきます。</p>
R 委員	<p>よろしくをお願いします。</p>
会長	<p>次に進みます。(2)岡谷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンという部分でなにかありましたらお願いします。</p>
企画課長	<p>人口ビジョンについては、お手元に総合戦略がいつているかと思いますが、その中に人口ビジョンというものがございまして、その人口推計をここで言っているものになります。もしお持ちでしたら、総合戦略の人口ビジョンを見ていただければご理解をいただけるかと思えます。</p>
会長	<p>意識付けの問題ですが、私どもがいただいた資料は、総合戦略と人口ビジョンがあるんですが、そのもの自体は人口の問題と、戦略の部分は産業の問題という部分の括りで並列で考えていいんですか。</p>
企画政策部長	<p>地方創生というものですが、以前にも話題になりましたが、多くの都市で消滅可能性都市ということで、これから人口減が進んでいくとまち、都市として存続できないのではというレポートが出され、国では地方創生ということで地方が活性化することで日本全体が活性化してくという考え方があります。その中で、まず人口ビジョンを作りなさいということです。統計的には約5万人いた人口が2060年には3万人を切るような推計が出ている中で、人口減に少しでも歯止めをかけて、下がっていく角度を緩めるためにビジョンを作りなさいということでして、そのビジョンを達成するために総合戦略を作って、岡谷で言いますと、働く場所を作ってという部分で、たくましい産業創造戦略、それから安心して子育てができる環境を作らなければいけない。あるいは岡谷市という知名度を上げなければいけないということ、あるいは快適に住み続けることができるような安全安心なまちをつくらなければいけない、という</p>

	<p>ことで総合戦略の中では4つの基本戦略を立てて、2060年の4万人台の維持を目標としています。人口ビジョンと総合戦略の関係と申しますと、急激な少子高齢化、人口減に対してそれに歯止めをかけましょうということでまず人口的な目標を立てまして、それを達成するために当面5年間戦略を立てたという関係になっておりますのでよろしくお願い致します。</p>
<p>会長</p>	<p>部長の説明でわかりました。ということは、例えば目次に14番と15番と位置が違うんですね。もしその話ですと、先に人口ビジョンがあって、その後に総合戦略を並べていただくと趣旨がわかると思うんですが。ぱっと見ると戦略というものが前にあって人口ビジョンが出てくるので、位置づけが良くわからなかったです。今聞いてわかりました。</p>
<p>企画政策部長</p>	<p>確かにそういう面から見ますと、わかりづらい資料配布になっていたかと思えます。申し訳ありません。</p>
<p>会長</p>	<p>他にございますか。</p>
<p>K委員</p>	<p>まち・ひと・しごと創生人口ビジョンということで地方創生の関係があったので、これが基本構想(2)のタイトルとして使われていると思うんですが、第4次ときは「将来人口の想定」ということで載っているので項目のバランスが取れていると思えますが、今回は地方創生があって人口ビジョンが出たので、それを使いたいという意図があると思うんですが、並びになった時に少し浮いてしまっているのが悩んでしまう一因かなと思えます。それをわかりやすく見せるためには第4次と同じように「将来人口の想定」が基本に載って、副題なりに「まち・ひと・しごと創生人口ビジョンより」とした方がタイトルからも何を言いたいかわかると思えます。これだと入りから何を言いたいかわからないと思えますが、どうでしょうか。</p>
<p>企画課長</p>	<p>4総の場合は、将来目標ということで人口の目標を入れてございました。いままで行政が行う計画というのは右肩上がり人口があがっていくので保育園を作る、学校を作る、施設を作るというのが今までの行政の基本の計画でした。ですので、計画には人口を推計していろいろ事業費を算定していたという時代がございました。しかし、4総を策定したころから人口が減少しはじめている市町村が多くなってきたということがございました。ですので、丁度前回の4総の策定後から他の市町村の計画を見ますと、人口の記述が少なくなってきたというのが傾向であります。なぜかと申しますと、人口が減っていく時代に道路作るのか、学校作るのかという議論も出てくるということで、だんだん人口ではなくて、今いる市民の生活をどうしていくのかということ計画をもっていくのが主流になってきました。我々も5総を作るにあたって、人口については、検討させていただいた。5総は10年先を見据えて策定していますが、人口ビジョンは、当時40年先を見据えて推計したもので、議決までいただいた内容でございますので、生かしていこうということでこのような形で残していますが、意見のありましたとおり、唐突的に出てしまうとわかりにくいと思えますので、庁内において検討させていただきたいと思えます。</p>

<p>会長</p>	<p>確かに、今の点で言うと、第4次のときは「将来人口の想定」という 標題になっているんですね。いきなり人口ビジョンのようなものが出て くるのは、ご一考いただいた方がいいのではと私自身も思います。</p>
<p>A 副会長</p>	<p>今の話に関連してですが、人口ビジョンが2060年の人口の目標と いうことで、これは40年後の話になります。変な言い方をして申し訳 ないんですが、40年経つと私もいないかもしれないということで、そ ういうところの人口4万人というのは、一つの目標として掲げることは 理解できますが、これを今回の10年後を見据えた基本構想の非常に大 きな目標のような設定になってくるといって、それはどうなのかなとい う気がします。もしこれを載せるのであれば、今から可能かわかりませ んが、10年後に2060年の目標に向かってこの人口目標にするん だ、そのための基本構想、のようなつくりにしたほうがわかりやすさ が出てくると思います。よく巷でも人口推計ほどよくあたる推計はないと 言われているようなことですので、40年後の4万人維持というのは、 言葉としては理解できますが、非常に非現実的といいますか、イメージ がしづらいと言うか、正直言って有って無いような人口ビジョンの目標 だったりする可能性もあると思います。もし仮に本当に目指すとすると、 人口は急激に増えることはないし、若年層が急に増えるわけでもない。 今年沢山子どもが産まれてもその子どもたちが将来を担っていくのは、 10年後、20年後、30年後ということだと思うので、そうすると長 いスパンで見えていかなくてはいけない。10年後このくらいのことまで やっておかないといけない、このくらいの人口維持をできないと206 0年の4万人はできないんだということが大前提だと思うものですから、 この基本構想の前提になる目標として、10年後の人口をこういう ふうにしたいんだということを加えることができると、整合性、わかり やすさも出せると思いますがいかがでしょうか。</p>
<p>企画課長</p>	<p>推計ですので、推計を出すことはやぶさかではないかと思ひます。今 回人口ビジョンを使ったというのが、総合戦略を入れ込んでいるもので すから、あくまでも人口ビジョンが基本となってこういう方向に向かっ ていくという位置づけですので、市としては、人口ビジョンだけは外せ ないということで載せています。国立社会保障・人口問題研究所という 国の機関を載せておりますが、そこが、国調の次の年から市町村ごとの 推計を出しますので、その推計を使えば載せられないということはない かと思ひますので検討させていただきたいと思ひます。</p>
<p>会長</p>	<p>ここで、時間も経過しましたので、小休止させていただきたいと思ひ ます。</p> <p>---<休憩>-----</p>
<p>会長</p>	<p>2)岡谷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの関係でなにか他にご ざいますか。</p>
<p>Q 委員</p>	<p>数字が国立社会保障・人権問題研究所の推計で2045年に31,52 5人というような数字がでてきたり、それを2060年に人口4万人を 維持したいということが一番下のブロックに書かれていて、総合戦略の ほうは4つ数字が出てきており、一番上で42,000人、下で35,6</p>

	<p>00人というようなもの2045年の推計としていると。いろんな数字が出てくるんですが、財政の基盤、長期の収入計画、5年後、10年後の収入を立てられるのであれば、今どの数字を使ってたてられているのかをお聞きしてもいいですか。</p>
<p>企画課長</p>	<p>財政推計につきましては、国立社会保障・人口問題研究所の推計値で財政のほうは推計をさせていただいております。15歳から65歳までの生産年齢人口をみて収入をみたりして推計をしております。27年の国勢調査に基づいたということで2045年は31,525人というので今ところ財政推計は出しているというところでございます。</p>
<p>Q委員</p>	<p>一番厳しいであろうところで見ているということでしょうか。</p>
<p>企画課長</p>	<p>厳しいというかですね、人口ビジョンのところいくつか数字があるというのは、独自に国立社会保障・人口問題研究所の推計に対して、独自に出生率を上げたり、操作をして数字があるということなんです。財政推計をやる際には、国立社会保障・人口問題研究所の数値ズバリでやっていますので、どれが厳しいとか言うものではなく、その推計値を使っているということになります。</p>
<p>Q委員</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、(3)土地利用の構想ということでご検討をいただきたいと思います。中の部分は3つに分かれておまして、①土地利用構想図(整備ゾーン)ということ、それから②地域別土地利用、③目的別土地利用という形で並んでおりますけれども、今回の5次のもので4次のものでそんなに大きくは変わってないですね。</p>
<p>R委員</p>	<p>以前に、西山開発というものがあつたかと思うんですが、今現在この西山開発についてはどのようなことになっているでしょうか。お聞きしたいと思います。</p>
<p>企画課長</p>	<p>以前は西山開発というものがございましたが、現在は終了したといえますか、考え方が変わっております。ただ、話題にはなっておりますが、スマートインターということがありますが、湊地区の大規模な開発の計画はございません。</p>
<p>会長</p>	<p>無いようでしたら、次に進みます。(4)まちづくりの基本目標についてのご意見等ございましたらお願いします。</p>
<p>F委員</p>	<p>先程、課長さんの説明の中で、6つあるけれどもみんな同類、強弱はないということだけでも、順番についても検討してほしいとありました。そうは言っても順番は上から順にという印象を受けます。今回4総とはずいぶん順番が変わっているんですが、その辺の意図することを教えていただきたいのですが。</p>
<p>企画課長</p>	<p>意図という意図はございませんが、計画を策定するにあたり市民の皆さんのご意見を聞かせていただきました。7つくらいの分野に分けて、</p>

どこに力を入れるべきですかというようなアンケートをとらせていただいて、基本はその順番というのが今の部分です。32、33ページのように縦に並べると、順番付けのようになりますが、私どもの考えは横にしてという風に考えていますが、政策のところに数字が入りますので、そういう風に考えるとこうなのかなとも思います。子育て、福祉の関係が一番多かったものですから、そのような並びにさせていただいております。ただ、将来都市像にもありますように、これからは人というところがメインになりますので、どうしても人と産業の部分については市の取り組みとしては、順位は高いのかなと思ってはおりますが、この並びについては意図はありませんが、市民の皆さんの意見の順番に並べているということになります。

F 委員

前回の研修のときの資料19ページのところに例えばということなんですが、従来の体系的、網羅的な施策ではなく優先的、重点的に実施する施策、事業だけを示す計画なんていうのもありなんじゃないかというものがこないだの話でもありました。当然行政として、これにというのは出しにくいとは思いますが、とは言うものの、限られたお金、人、時間という中で、5年間というものを見たときに、特に注力すべきものはあると思うんですね。強弱付けずにやり続けていくものもあるだろうし、あるいは首長さんの思いもあるだろうし、そういう中である程度はメリハリは付けていくべきだと思うんですね。どうしてもなんでもかんでもやろうというものがあるんですけども、という中で、第4総のときには、「人が集い、にぎわいと活力にあふれるまち」というあたりがトップの項目であったんですが、個人的な思いとすると、この5年間というものをみたときには、前回と同じで、「人が集い、にぎわいと活力あふれるまち」それがこのタイミングでは一番上にきて、力を入れるべき基本目標なのかなと思います。これは意見です。個人的にはそういう風に思いました。理由としましては、商業連合会という立場で出させていただいていることもあり、「買い物するなら岡谷」ということを標榜しています。今すごく変わり目のときです。民間のものですが、大きなものができまして、商業的な面でも注力すべき時期だと思いますので、個人的にはそのようにしてほしいと思ってはおります。

メリハリ付けるものをここに出すのは難しいですかね。

企画課長

施策の大綱は基本的には10年間という形にしてございます。4総の時にも作りましたが、一応5総でも重点プロジェクトという位置づけで特に注力するものを設定しようとして予定しています。まだ文言までは決めてはいませんが、そんなつもりでいます。それから、総合戦略では引き続き残していこうと思ってはおりますので、産業の部分だとか、子育て、情報発信の岡谷ブランドの部分、安全・安心という部分についてはこの5年間についても特にやっていきたいと思っております。順番については参考にさせていただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

F 委員

確認ですが、4総の時の3つの重点施策というのが、産業、子育て、安心安全、これが引き継がれるということですか。

企画課長

4総のときは2つだったんですね。後期のときは病院のことがございましたので安全安心というものを入れています。この部分については今後5年間についても変わらないだろうというような形でございますので、文

言は別としましても、産業分野、子育て、安全・安心の部分は入れていかなければと思っていますので、考え方は大きく変わることはないかと思えます。

F 委員

わかりました。是非そうしてください。

会長

私からいいですか。今回の5総は並列的に考えていくということでした。4総のときは基本目標は5つありました。今回1つ増えているんですね。福祉の部分が一番に来ていて、アンケートの部分で市民が望んでいることだろうということで一番にあげられたというのが1つなんですが、教育の部分が今回2番に来ていたんですね、それで、1番最初にあった産業の部分が3番目に来ているということ。かなり検討して入れ替えをされているかなとふと思ったものですから、アンケート云々じゃなくて、構想された意図が何かあるのかなと。

もう1つ、「みんなでつくる、確かな未来を拓くまち」これがプラスになった部分かと思えます。市の具体的な施策等をくくっているのかなとも思いますが。逆に言うとそれが1番上にあっても良いと思えますが。

企画課長

福祉の部分という言い方をしておりますが、私どものとらえとしますと、「ともに支えあい、健やかに暮らせるまち」と「未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち」というこの部分が子育てに該当するかなということで上位にいれてあります。これを1つにしてしまうと大きくなってしまいますので、幼児教育までの部分を最初に、学校の教育については未来の担い手という形で置いています。いままでの考え方でいいますと、産業か子育てというような順番でございましたけれども、今回は市民の意見も聞くなかで、子育てが最初にあって、産業が2番目にあるというような順番になっております。子育てというのは広いので、1つの政策でまとめてしまいますと大きくなりすぎてしまうということで子育て、教育というのがあって、その横に産業があるという風にとらえていただければと思います。追加という部分でありますけれども、4総のときも、目標にはしておりませんでした、「総合計画の推進に向けて」ということで1項目入れてございました。それを今回は頭だしをさせていただいたという風にご理解いただければと思います。それはなぜかといいますと、健全財政という部分はいろんな政策と変わらないというところで、この部分についてもしっかりと目標として掲げてまちづくりを進めていくべきということで、基本目標ということで上に上げたというふうにご理解いただければ。

会長

そうしますと、4総の時は第3章でくくってあるんですね。第2章までに5にしておいて、その後第3章にして市民総参加のまちづくりということで推進に向けてとくくってあるわけですね。逆に言うとそれはうんと重く第3章になっているわけですね。

企画課長

そうですね。位置づけにはそのような形です。

会長

もう一ついいですか。6番目の「みんなでつくる、確かな未来を拓くまち」という表現がありますがその「拓く」とい言葉が使われた意図、読む人にどういう風なものをもとめているのか。正直私の辞書ではあんまりこの「拓」という字は使わないんですね。

企画課長	<p>この「拓」という字は「開拓」とかで使われることがありますね。岡谷市は厳しい財政状況で来ていたということであるんですが、5総においてもっと未来に切り拓いていこうと、健全財政を維持しながら発展をさせるというかたちでこの「拓」という字を使わせてもらって、確かな未来を築いていくというようなイメージで使っています。</p>
会長	<p>逆に戻りますが、こういう文章を市民全員に読んでもらうというのが理想ですよ。比較的平易な言葉の方がいいのかなと思うんですが、そうかといって意図したことを表現するためにはそういう言葉がなければとも思いますけれども。練っておられてこういう形になったのでありますので、ちょっとイメージがパッとわかなかったものですからこういう質問です。</p>
企画課長	<p>会長すみません。もしよろしければ、順番だけでも委員さんから意見いただければご参考になるかとおもいますので。</p>
会長	<p>それでは、6つある中で、もし順番をつけるのであればそれぞれご意見がありましたら言っていただければと思います。 特にご意見ございませんか。私が調べたところでは、1番目の「ともに支えあい、健やかに暮らせるまち」は2番目にございました。トップになったことは福祉の部分、子育ての部分を重要視ということで、それはいいと思うんですね。2番目の部分は4番目だったものが2番目に来ている。1番と関係が有ることかなと思います。3番目には産業がきており、トップでもいいのではとの意見もございました。4番目には安全安心の部分がきており、これは4総のときは3番目に表現されました。5番目の快適な生活はこれは同じかだと思います。そういったふうに順番の変更がございます。それぞれのお立場で意見があるかと思いますがいかがですか。山崎さんいかがですか。</p>
S委員	<p>このままでいいと思います。別に順序がどうかではなく全てが大事なこと。強いて付けるならこういうことなんだと思う。</p>
F委員	<p>4総のときの順番の方がスツとくる気がするんです。というのは3番目も安全安心、自然環境。台風がきたり、災害がいままで無かったまちでおきている。早くそういうものが起こる、来るということが必ずあるという想定のもとにそういう体制をもっと早くに確立させていく。今は経験しているところが沢山ある。それを基に早くに更に強固なものを確立していくためにもっと順番を上げてもいいのかなと思うと4総のものが胸に落ちる。</p>
P委員	<p>私はこのままでいいのかなと思います。説明しやすいのはこの順番かな。重要なのはわかります。災害の問題等も。子育てをして、学校の教育をしてその後、産業界に出て行ってという、人生のプランが出ているのでこの順番でいいかなと思います。</p>
O委員	<p>先程の話にもありましたが、横並びということを考えますと、このままでいいんじゃないかなと思います。</p>

N 委員	<p>全て大事ですけれども、子どもをトップにおいておけば問題はないかなと思います。</p>
L 委員	<p>同列だというふうにご説明がありましたので、どれも大事だということであればこのままでよろしいかなと思います。</p>
A 副会長	<p>私はこれじゃないといけないと思います。今回は。将来都市像がこういう都市像なので、「人結び」という「人」が中心だということを今回は強調しているのが将来都市像の想いだと思うので、私はむしろこの順番でないといけないと思います。</p>
B 副会長	<p>私もこの順序でよろしいかと思ひます。それぞれが大事なことで実行していくのはそれぞれの部署でお仕事をしていただいて、丸く進めていられる状態ではないかと思ひますので、順番としては、これがいいかなと思ひます。</p>
C 委員	<p>横並びであるとしたら、上から順番でこれが大事とかやっていくんじゃないかと、ページを読んでいくための番号を1-1とかにしないで、そのまま番号とか消してしまえばどうですか。表記の仕方を少し考えれば。順番は横一列で考えていくのであればこれでいいと思ひますけれども、笠原委員さんみたいに考えたい人もいると思うんですよ。ここに1-1とか2-1とか書いてあるので、これが大事と思われる人が多いと思うんですよ。なので、番号を消してしまつて、横のページ数をみればどこに解説があるというのはわかりますので、そういう表記も考えられたらどうでしょうか。</p>
D 委員	<p>私もこのまま。ちょうど今、自分が子育て世代ということもあるので、子どもを育てながら教育をしていただいて、恩返しに戻ってきて仕事を探してもらおうという形を思えば、このままの形がストレートでいいかなと思ひます。</p>
E 委員	<p>中山文明委員が言ったように、人生の流れを考えればこれが一番妥当だと思いますし、読み取りやすいのかなとは感じます。4総のときは全然関わっていないので、4総から関わった方は思いが強いのかもかもしれません。でも5総だけみた場合にはこの流れが一番マッチングしていると思ひますが。</p>
J 委員	<p>私もみなさんと同じようにこのとおりでいいと思ひます。</p>
K 委員	<p>私もこの順がいいと思ひます。あえてこの5総でアンケート結果出しているということは、それを含んでいる部分なのかなということと、(5)の部分でもあえて政策の中でも1番にあげているということには、並列といいながらもどこかで何か動いているんだろうなというところを踏まえるとその感覚に賛成という部分がありますので、この形のまがいいというのが私の意見です。</p>
R 委員	<p>私も行政の皆さんが熟慮されて、こういった形がとられたということですのでよろしいのではないかなと思ひます。</p>
Q 委員	<p>私もこのまがいいと思ひます。</p>

会長	<p>委員の皆さんにそれぞれご意見をいただきましたので、参考にしていただきたいと思ひますし、また参考になる番号の付け方とか工夫できることがあればいいと思ひますけれども、概ね趣旨はわかったかと思ひます。それでは、これで今日の予定の部分は終了しましたけれども、これまでのところで言い漏らしたことがございましたら言っただけければと思ひますし、次回もありますのでメモをしておいていただきまして、戻ってもいいかなと思ひますので、ぜひいろんな角度でご検討いただければと思ひます。</p> <p>今日の予定を終了といたします。</p>
-----------	--

(3) 部会審議について

企画課主幹	<p>事務局の宮坂でございます。</p> <p>次回審議会から行う部会審議についてご説明させていただきますので、「資料1 岡谷市基本構想審議会 部会編成表」をご覧ください。</p> <p>ご担当いただく部会につきましては、ご提出いただいた「部会審議意向調査票」に基づき取りまとめた結果、ご覧いただいております資料1のとおりとなりましたので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>次回より基本目標ごとに具体的な審議を行いますので、計画案の内容につきまして、再度ご確認をいただきますよう、お願ひ申し上げます。</p> <p>なお、担当外となる部会の審議事項に係る質疑等については、お配りしてある「質疑等連絡表」に記載の上、次回審議会の前日までに事務局へご提出ください。</p> <p>また、ご都合により欠席される場合につきましても、「質疑等連絡表」をご提出いただければ、部会での審議に加えてまいりますので、よろしくお願ひ致します。また、本日ご審議いただきました、序論や基本構想につきましても、ご意見、ご質問等ございましたら、質疑等連絡表を使って事務局までお寄せいただければと思ひます。</p> <p>説明は以上となります。</p>
--------------	---

(4) その他

会長	その他ということで全体的になにかございましたらお願ひします。
各委員	<特になし>

4 閉会

A 副会長	<p>本日はお忙しい中誠にありがとうございました。様々な意見があるんだなということも大変勉強になりましたし、沢山のご意見を出していただけて誠にありがとうございました。今日は内容が抽象的な部分でございましたけれども、次回からは部会審議ということでより具体的になっていくかと思ひますので、特にご関心のある分野については、様々なご意見を本日以上にお出しいただければと思ひます。質疑等連絡表も是非有効活用していただいて、より多くの意見を反映させるというような形がとれればと思ひますのでよろしくお願ひします。</p> <p>それでは以上をもちまして、第3回岡谷市基本構想審議会を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>
--------------	--